

令和3年度病害虫発生予報第4号

令和3年7月1日
山梨県病害虫防除所

今月の天気予報

6月24日気象庁発表、1か月予報による関東甲信地方の向こう1ヶ月（予報期間6月26日～7月25日）の天気は次のとおりです。

前線や湿った空気の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないでしょう。向こう1か月の気温は、ほぼ平年並の見込みです。

I 特に注意が必要な病害虫

【果樹】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
ブドウ	晩腐病	—	平年並 ～ やや多い	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年、発生量がやや多く、結果母枝等での越冬病原菌は多いとみられる。 ○ 雨水トラップにおいて5月中旬から、胞子の飛散を確認した。 ○ 6月中旬現在、調査園（巨峰系：甲府市、笛吹市、山梨市甲州市）の約半数以上が早期カサかけや仕上げのカサかけ（袋）を実施している。 ○ 向こう1か月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。曇りや雨の日が多い予報のため感染拡大の恐れがある。 □ 病原菌は、雨水により飛散するため、落花期以降、降雨が続く場合は注意が必要である。 □ 果粒への感染を防ぐため、仕上げのカサかけ、袋かけは出来るだけ早期に行う。摘粒作業が遅れている場合は、先にカサをかけてから摘粒を行う。 □ 着色期以降、発病果粒は伝染源になるため、見つけ次第除去する。 □ 果粉の溶脱・果粒の汚染に注意し、防除暦に従い薬剤防除を徹底する。ブドウ晩腐病防除マニュアル（令和2年12月発行）、令和3年度病害虫防除所情報第1号を参考に防除対策を行う。 <p>防除所情報第1号「ブドウ晩腐病の防除対策について」 https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/69805589938.html</p>
モモ	せん孔細菌病	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6月下旬現在、一部の調査園では発病葉を確認しているが、発病葉率は昨年より低く、果実被害も見られていない。 ○ 向こう1か月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。曇りや雨の日が多い予報のため、発病葉からの二次伝染の恐れがある □ 春型枝病斑（スプリングキャンカー）の見られる枝や発病葉および果実は速やかに除去する。 □ 発病葉が目立つ新梢では、夏型枝病斑（サマーキャンカー）も見られ始めるので、剪除を徹底する。 □ モモせん孔細菌病防除マニュアル（令和2年12月発行）を参考に防除対策を徹底する。

【作物】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠 (○) 及び防除上注意すべき事項 (□)
水稲	ウンカ類	やや早い	平年並	<p>○気象予報データを用いたウンカ飛来予測によると、飛来好適条件が、例年よりも早い時期から多く出現している。</p> <p>○向こう1ヶ月の気温はほぼ平年並の見込みである。</p> <p>□特にトビイロウンカが昨年発生した地帯では、稲の株元をよく観察し、1株あたり3頭以上の寄生数を目安に、幼虫のふ化が終わる時期を見はからって薬剤散布を行う。</p>

II 各作物の病害虫発生予報

【果樹】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠 (○) 及び防除上注意すべき事項 (□)
ブドウ	べと病	—	平年並	<p>○6月下旬現在、現地における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。曇りや雨の日が多い予報のため、感染拡大の恐れがある。</p> <p>□袋かけ、カサかけが済み次第、ボルドー液等での予防散布を実施する。併せて新梢管理（摘心など）を徹底し、副梢等に薬液が付着するように棚上散布も行う。</p> <p>□発病葉や果房は伝染源になるため、見つけ次第除去する。</p>
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	<p>○6月下旬現在、黄色粘着トラップ（南アルプス市）への誘殺数は、平年並である。</p> <p>○向こう1カ月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。</p> <p>○有効積算温度（発育零点9.7℃、発育上限33℃、1,330.4日度。出典：日本植物防疫協会）による第4世代成虫の予測発生時期は、7月25日頃となる見込みである。</p> <p>□果粉の溶脱・果粒の汚染に注意し、防除暦に従い薬剤防除を徹底する。袋かけを行う園では、散布後はできるだけ早く袋かけを行う。カサのみの園では、定期的な薬剤防除を実施する。</p> <p>□新梢先端への寄生が多いので、新梢管理（摘心など）を実施し、棚上からも薬剤を充分散布する。</p>
	クビアカスカシバ	—	平年並	<p>○6月下旬現在、フェロモントラップ（南アルプス市、甲州市）への誘殺数は平年並である。</p> <p>□虫糞やヤニを目安に早期発見に努め、粗皮下に食入した幼虫を捕殺する。</p> <p>□被害が認められる園では、カサかけ・袋かけ後にパダンSG水溶剤1,500倍を主幹部や主枝など太枝によくかかるように散布する。ただし、デラウェアの隣接園ではサムコルフロアブル10,500倍を用いる。</p>
モモ	灰星病	—	平年並	<p>○6月下旬現在、現地における発生量は平年並である。</p> <p>○開花期の花腐れの発生量は少なかった。</p> <p>○向こう1カ月の降水量は、平年並か多い見込みである。曇りや雨の日が多い予報のため、降雨が続くと発病する恐れがある。</p> <p>□除袋後（着色始め）の防除を徹底する。収穫期に雨が多い場合や収穫期間が長引く場合は、追加散布を行う。</p> <p>□発病果は伝染源となるため、見つけ次第土中に埋めるなど適切に処分する。</p>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/yamanashi>

【果樹】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
モモ	モモシクイガ	—	平年並	<p>○6月下旬現在、フェロモントラップ（韮崎市、山梨市、笛吹市）への誘殺数は平年並である。</p> <p>□7月中旬～8月上旬が、第1世代成虫の発生盛期にあたるため防除を徹底する。特に海外輸出を行う地域では、地域の発生状況にも注意し防除を徹底する。</p> <p>□除袋後に雨が多い場合や収穫期間が長引く場合は、追加散布を行う。</p>
	ミカンキイロ アザミウマ	—	平年並	<p>○6月下旬現在、桃色粘着トラップ（韮崎市）への誘殺数は平年並である。</p> <p>○向こう1カ月の気温は、ほぼ平年並の見込みである。</p> <p>□除袋直後（着色始め）の防除を徹底する。</p> <p>□雑草が発生源になるため、除袋前の除草を徹底する。</p>
	モモノゴマダラノメイガ	—	平年並	<p>○6月下旬現在、フェロモントラップ（韮崎市、山梨市、笛吹市）における誘殺数は、平年並～やや多い。</p> <p>□7月下旬から第1世代成虫の発生時期にあたり、幼虫による食害も心配されるため、特に晩生種以降の品種では防除を徹底する。</p> <p>□除袋後に雨が多い場合や収穫期間が長引く場合は、追加散布を行う。</p>
スモモ	灰星病	—	平年並	<p>○6月下旬現在、現地における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1カ月の降水量は、平年並か多い見込みである。曇りや雨の日が多い予報のため、降雨が続くと発病する恐れがある。</p> <p>□収穫前の降雨により多発することがあるので、予防散布を徹底する。なお収穫期に雨が多い場合や収穫期間が長引く場合は、果粉の溶脱に注意して追加散布を行う。</p> <p>□発病果は伝染源となるため、見つけ次第土中に埋めるなど適切に処分する。</p>
	スモモシクイ	—	平年並	<p>○6月下旬現在、フェロモントラップ（南アルプス市）への第1世代成虫の誘殺数は平年並である。</p> <p>□第2世代成虫の飛来が増える、7月中旬からの防除を徹底する。</p> <p>□収穫期に雨が多い場合や収穫期間が長引く場合は、ブルームの溶脱に注意し追加散布を行う。</p> <p>□被害果は見つけ次第土中に埋めるなど適切に処分する。</p>
果樹全般	果樹 カメムシ類	—	平年並	<p>○6月下旬現在、フェロモントラップ（南アルプス市、甲州市）への誘殺数は平年並である。</p> <p>□山間部に、エサとなるスギ・ヒノキの球果が少ない場合は果樹園への飛来する恐れがある。</p> <p>□飛来状況は、地域やほ場によって差があるので、夕方～夜間及び早朝に園を確認し、飛来状況に応じて地域ごとに一斉防除を行う。</p>

※モモシクイガ、モモノゴマダラノメイガのトラップ調査結果

<https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/92111468716.html>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
夏秋 トマト	疫 病	平年並	平年並	○6月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1ヶ月の降水量は平年並か多い見込みである。 □早期発見に努め、り病した茎葉・果実は除去し、処分する。 □窒素過多にならないようにする。 □予防散布に努める。
	ミカンキイロ アザミウマ (白ぶくれ)	平年並	やや多い	○6月下旬現在、現地ほ場における発生量はやや多い。 ○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。 □発生初期の防除を徹底する。 □ほ場周辺の雑草は発生源となるので除草を徹底する。
	オオタバコガ	平年並	平年並	○6月下旬現在、現地ほ場における発生量は平年並である。 ○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。 □老齢幼虫には薬剤の効果が低いため、発生初期の防除を徹底する。 □幼虫は果実内部に食入し、農薬がかかりにくくなるため、作業の際にはほ場内をよく観察し、食害痕や虫糞を目安に幼虫の早期発見に努める。
夏秋 キュウリ	べと病	平年並	平年並	○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。 □予防散布に努める。 □早期発見に努め、り病した葉は除去して処分する。 □多湿条件で多発するため、排水をよくして過湿を避ける。
	アブラムシ類	平年並	平年並	○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。 □発生初期の防除を徹底する。
	ハダニ類	平年並	やや多い	○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。 □発生が多くなると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。 □薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 □葉の裏に多く寄生するため、薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。
	アザミウマ類	—	やや多い	○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。 □発生初期の防除を徹底する。 □ほ場周辺の雑草は発生源となるので除草を徹底する。

※オオタバコガのトラップ調査結果

<https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/00035185449.html>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

【野菜】

作物	病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠 (○) 及び防除上注意すべき事項 (□)
夏秋ナス	オオタバコガ	—	平年並	<p>○6月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○6月下旬現在、フェロモントラップ(甲府市、笛吹市)の誘殺数は平年並からやや多い。</p> <p>○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。</p> <p>□老齢幼虫には薬剤の効果が低いため、発生初期の防除を徹底する。</p> <p>□幼虫は果実内部に食入し、農薬がかかりにくくなるため、作業の際にはほ場内をよく観察し、食害痕や虫糞を目安に幼虫の早期発見に努める。</p>
	ハダニ類	—	やや多い	<p>○6月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並からやや多い。</p> <p>○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。</p> <p>□発生が多くなると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。</p> <p>□薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p> <p>□葉の裏に多く寄生するため、薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。</p>
	アザミウマ類	—	やや多い	<p>○6月下旬現在、巡回ほ場における発生量はやや多い。</p> <p>○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。</p> <p>□発生初期の防除を徹底する。</p> <p>□ほ場周辺の雑草は発生源となるので除草を徹底する。</p>
	ハスモンヨトウ	—	平年並	<p>○6月下旬現在、フェロモントラップ(甲府市、笛吹市)の誘殺数は平年並からやや多い。</p> <p>○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。</p> <p>□作業の際にはほ場内をよく観察し、卵塊やふ化後分散する前の若齢幼虫を見つけ次第捕殺する。</p> <p>□老齢幼虫には薬剤の効果が低いので、発生初期の防除に重点をおく。</p>
キャベツ	コナガ	—	平年並	<p>○6月下旬現在、フェロモントラップ(鳴沢村)の誘殺数及びキャベツ巡回ほ場(鳴沢村)における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。</p> <p>□薬剤に対する抵抗性がつきやすいので、同一系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。</p> <p>□鳴沢地域においては、フェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5、マッチ乳剤、ハチハチ乳剤、パダンSG水溶剤に対する感受性の低下したコナガが認められたため、異なる系統のローテーション散布を行う。</p>

【野菜全般】

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠 (○) 及び防除上注意すべき事項 (□)
うどんこ病	—	平年並	<p>○6月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1ヶ月の降水量は平年並か多い見込みである。</p> <p>□早期発見に努め、り病した葉、花、果実は除去してほ場外に出し、処分する。</p> <p>□発生初期の防除を徹底する。</p> <p>□同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p>
オオタバコガ	—	平年並	<p>○6月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○6月下旬現在、夏秋ナス(甲府市、笛吹市)ほ場のフェロモントラップ誘殺数は平年並からやや多い。</p> <p>○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。</p> <p>□例年、6月下旬から第一世代成虫が発生する。成虫の発生後は産卵と幼虫が見られるため、幼虫の食害痕や虫ふんを目安に早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。</p>
アブラムシ類	—	平年並	<p>○6月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。</p> <p>□発生初期の防除を徹底する。</p>
ハダニ類	—	やや多い	<p>○6月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並からやや多い</p> <p>○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。</p> <p>□発生が多くなると防除が困難になるため、発生初期の防除を徹底する。</p> <p>□薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。</p>
ハスモンヨトウ	—	平年並	<p>○6月下旬現在、巡回ほ場における発生量は平年並である。</p> <p>○6月下旬日現在、夏秋ナスほ場のフェロモントラップ(甲府市、笛吹市)誘殺数は平年並からやや多い。</p> <p>○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。</p> <p>□作業の際にはほ場内をよく観察し、卵塊やふ化後分散する前の若齢幼虫を見つけ次第捕殺する。</p> <p>□老齢幼虫には薬剤の効果が低いので、発生初期の防除に基準をおく。</p>
アサミウマ類	—	やや多い	<p>○6月下旬現在、巡回ほ場における発生量はやや多い。</p> <p>○向こう1カ月の気温はほぼ平年並で、降水量は平年並か多い見込みである。</p> <p>□発生初期の防除を徹底する。</p> <p>□施設では侵入防止のため施設開口部に防虫ネットを設置する。</p> <p>□ほ場周辺の雑草は発生源となるので除草を徹底する。</p>

※オオタバコガ、ハスモンヨトウ、コナガのトラップ調査結果

<https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/00035185449.html>

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/yamanashi>

【稲】

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
いもち病 (葉いもち)	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ○6月下旬現在、定点調査ほ場（中北・峡南・富士東部地域）における発生量は平年並である。 ○向こう1ヶ月の降水量は平年並か多い見込みである。 □冷水灌がい田、日照不足田、窒素過多田及び隣接ほ場に発生が認められた水田などでは予防散布を行う。 □コシヒカリなどのり病しやすい品種では、早期発見に努め、病斑を認めたら直ちに薬剤散布を行う。 □アメダスデータを用いた葉いもち発生予測モデル「BLASTAM」感染好適日出現から7～10日後にいもち病が発生するため、状況に応じて防除を行う。
イネノメイシ	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ○6月下旬現在、定点調査ほ場（中北・峡南・富士東部地域）における発生量は平年並である。 □高冷地及び盆地周辺の山付き地域では、発生が多くなるので注意する。 □窒素過多にならないように、追肥には十分注意する。 □25株当たり12.5～20卵塊が認められたら薬剤散布を行う。
ツマグロヨコバイ	平年並	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ○昨年の発生量は平年並であった。 □成虫及び老齢幼虫が、株あたり30頭程度寄生している場合は、直ちに薬剤散布を行う。

※水稻葉いもち発生予測モデル「BLASTAM」の結果

<https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/blastam.html>

水稻いもち病の定点調査の結果

https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/sakumotu_kekka.html

【樹木類】

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠（○）及び防除上注意すべき事項（□）
アメリカシロヒトリ	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> ○6月下旬現在、県内各地の発生量は平年並である。 ○7月の降水量は平年並の見込みである。 □巣網は見つけ次第取り除いて捕殺し、薬剤散布を行う。 □発見が遅れると被害が増加し、薬剤効果も低下するため、早期発見・早期防除に努める。 □公園、街路樹等における防除にあたっては捕殺を優先し、やむをえず薬剤散布を行う場合は、飛散防止対策を徹底する。

※アメリカシロヒトリのトラップ調査結果

<https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/ameshiro.html>

防除薬剤は県病害虫防除基準・農薬適正使用指針による。
ただし、他作物が隣接して栽培されている場合は、農業協同組合が作成した代替薬剤の防除暦等を参考に、薬剤の選択を行う。

※防除薬剤は山梨県農薬適正使用サポートシステムで検索

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/yamanashi>

III 各病害虫対策

【立木果樹類のハダニ類対策について】

- (1) 高温乾燥が続いたり、梅雨明け後は、急激に発生が増えるので発生初期の防除を徹底する。
- (2) 防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため同一系統の殺ダニ剤の連用は避ける。

【立木果樹類のウメシロカイガラムシ類の防除対策について】

- (1) モモ、ネクタリン、スモモにおいて、ウメシロカイガラムシの多い園では、収穫が終えている品種でも7月上旬～中旬にコルト顆粒水和剤3,000倍で防除を行う。
- (2) オウトウでは、7月上旬～中旬にスプラサイド水和剤1,500倍で防除を行う。ウメでも同様に多い場合は、防除を行う。

【トマト黄化葉巻病、トマト黄化病の原因ウイルスを媒介する コナジラミ類の防除対策について】

- (1) トマト黄化葉巻病、トマト黄化病はコナジラミ類がウイルスを媒介して引き起こされる。タバココナジラミは両者を、オンシツコナジラミは後者のウイルスを媒介する。
- (2) 半促成栽培終了後、残渣は完全に枯らして、付着したコナジラミ類を死滅させてから片づけを行う。
- (3) 施設を10日以上密閉し、高温による蒸しこみを行い、コナジラミ類を死滅させ、次作に持ち込まないように徹底する。

【施設栽培作物収穫後の対策】

(半促成トマト萎ちょう病、半促成キュウリつる割病、イチゴ萎黄病、土壌線虫等)

- (1) トマト、キュウリ、イチゴ等施設栽培作物収穫後の根、株、茎、葉等は翌作の土壌伝染性病害の発生原因になるので、早めに抜取り焼却するか、施設から持ち出し処分する。
- (2) 前年発生の見られた施設では作付けを避け、輪作を行う。
- (3) 土壌中に残存している病原菌や土壌線虫等を死滅させるため、土壌還元消毒や太陽熱消毒を行う。

【サツマイモ基腐病の対策】

近年、九州地域のサツマイモ産地において発生が確認され、被害地域の拡大が見られている。発病すると地際部から茎が枯れ、いもが腐敗する症状を引き起こすことにより、大幅な減収を生じる。本県での発生は確認されていないが、被害の蔓延を防ぐため、以下の点に注意する。

- (1) 未発生ほ場で生産されたことの確認などにより、健全な種苗を確保する。
- (2) 植え付け前の種苗消毒を行う。
- (3) 栽培期間中は、ほ場観察を通じて本病の早期発見に努め、発病株はほ場外に持ち出して適切に処分する。

IV その他

【農薬危害防止運動について】

6月から9月は「農薬危害防止運動」実施期間です。農薬を使用するときは次の事項に注意して下さい。

- (1) 毒物又は劇物に該当する農薬だけでなく、すべての農薬について、安全な場所に施錠して保管するなど、保管管理には十分注意する。
- (2) 農薬の調製又は散布を行うときは、ゴム手袋、マスク等の防護装備を着用し、取扱を慎重に行う。

- (3) 農薬を散布するときは、事前に関係者に連絡し、隣接住宅等に被害を及ぼさないよう風向き等に十分注意する。

(参考) 住宅地等における農薬使用について

農林水産省ホームページ http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_tekisei/jutakuti/

- (4) 水田において農薬を使用するときは、止水に関する注意事項を遵守し、河川の汚染の防止等、環境の保全に努める。
- (5) 使用残りの調製液や散布器具を洗浄した水の、河川や水路等への直接排水は極力避けること。
- (6) 農薬やその希釈液、残渣等を飲食品の空容器等へ移替えしない。
- (7) 農薬の空容器、空袋等の処理は、廃棄物処理業者に処理を委託する等、適切に行う。
- ・ 農薬使用者自身で、許可を受けた廃棄物処理業者に処理を委託する。
 - ・ J A等、地域共同で適正に回収処分する体制が確立しているところでは、当該システムにより処分する。

連 絡 先

山梨県病害虫防除所（山梨県総合農業技術センター調査部）

TEL 0551-28-2941

Eメール byogaichu@pref.yamanashi.lg.jp

インターネット

山梨県病害虫防除所ホームページ

予報対象作物を中心に「トラップ調査結果」「病害虫写真」等を掲載しています。

アドレス <https://www.pref.yamanashi.jp/byogaichu/>

山梨県農薬適正サポートシステム

山梨県病害虫防除基準・農薬適正使用指針に掲載された農薬の最新登録内容を確認できます。

アドレス <http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/yamanashi>